



MONACO

2009年1月21日

## モナコ公国モンテカルロ・バレエ団が2月に来日公演

ジャン=クリストフ・マイヨーの話題作2作が東京に

斬新で幻想的な振付けと、人間の本质を描こうとする深遠な芸術性で世界的に有名なモンテカルロ・バレエ団が、本年2月6日から5日間に渡り、東京公演を開催します。

今回の演目は、バレエ団の芸術監督、ジャン=クリストフ・マイヨーの最高傑作とも言われる「La Belle～眠りの森の美女」と、待望の新作となる「ミックスプロ」の2作です。「La Belle～眠りの森の美女」は、モンテカルロでの初演で、伝統的な振付けを拒んだ大胆な演出が観客を驚かせ、大きな話題を呼んだことで知られる、2002年度ニジンスキー振付賞の受賞作品です。一方、新作の「ミックスプロ」は、モンテヴェルディの音楽にのせ、「両性具有」のテーマを表現した作品です。シャネルやフェンディのオート・クチュールのデザインを担当するカール・ラガーフェルドが、舞台衣装を手掛けたことでも注目されています。また、今回上演される2作には、同バレエ団の存在感あるソリストである、日本出身の小池ミモザも出演します。

クラシック・バレエに現代的なテーマと芸術性を追求するモンテカルロ・バレエ団の、繊細で幻想、そして多くの話題で注目される公演は、日本のバレエファンを魅了することでしょう。

### 公演概要

- 【日時】 2009年2月6日（金）、7日（土）、8日（日）「La Belle～眠れる森の美女」  
2009年2月10日（火）、2月11日（水）「ミックスプロ」
- 【会場】 Bunkamura オーチャードホール

### モナコ公国とモンテカルロ・バレエ団

20世紀初頭のバレエ界に名を馳せたセルゲイ・ディアギレフ率いるバレエ団、「バレエ・リュス」が本拠地とし、創作と公演活動を行ったのがモンテカルロです。バレエ・リュスは1929年の解散まで、モンテカルロの地で、華麗で創造性にあふれる多くの作品を発表しました。バレエ・リュスの解散後も、ディアギレフの精神を受け継ぐいくつかのバレエ団がモンテカルロを本拠地として公演活動をしていましたが、第二次世界大戦とともに姿を消します。

現在のモンテカルロ・バレエ団は、1988年、モナコに再びバレエ団を置くことを願ったグレース公妃の遺志を継いだ、カロリーヌ公女（現在のモナコ公国元首・アルベール2世公の姉）により設立されました。1993年には、ジャン=クリストフ・マイヨーが芸術監督に就任し、その斬新な感覚と芸術性で独自の舞台を創造し、世界的に高く評価されるバレエ団に育て上げました。20世紀初頭のバレエ史に重要な役割を果たしたモンテカルロの伝統は、こうして現在に引き継がれることになったのです。

モナコ公国は、バレエをはじめとする、多くのイベントの開催地として知られています。面積が皇居の約2倍という公国では、主要なホテルやイベント施設、劇場の間を、徒歩で無理なく移動することができるという利点があります。ビジネスやアカデミックな会議の合間に、世界一流のイベントを手軽に楽しむことができるのも、モナコならではの魅力です。

当リリースに関するお問い合わせは  
モナコ政府観光会議局 日本事務所（担当：渡辺・青木）  
TEL:03-3225-1175 FAX:03-3225-0071